

## 「今後の町田市民文学館のあり方について（答申）」（概要）

### ▶ 諮問内容

#### 「今後の町田市民文学館のあり方について」

- ①町田市民文学館の存在意義について
- ②町田市民文学館の存廃について
- ③適正な管理運営手法について



### ▶ 答申の構成及び概要

#### 1 諮問までの経過（本文2～3ページ）

市民参加型事業評価での評価結果や、少子高齢化や人口減少、公共施設の老朽化などの町田市の状況、行政経営改革プランや公共施設等総合管理計画に基づく取組内容など、文学館を取り巻く状況について整理しています。また、教育委員会での検討状況をまとめた「町田市民文学館のあり方見直しについて（原案）」（以下「原案」という。）の作成、審議会への諮問の経過について述べています。

#### 2 町田市民文学館の概要（本文4ページ）

設立経過や実施事業、来館者の実績など、文学館の概要についてまとめています。

#### 3 審議会からの意見

文学館の存在意義及び存廃について、更には、適正な管理運営についての意見をまとめています。

#### （1）文学館の存在意義について（本文5～6ページ）

審議会では、原案で述べられている文学館のあるべき姿に加え、以下についても文学館の重要な存在意義であるとしています。

##### ◆アーカイブ機能

町田市にゆかりのある貴重な文学資料を、市の財産として適切に保存し、後世へと継承していくことは、文学館の重要な役割であり、本質的な存在意義である。

##### ◆「ことば」を学ぶ場

コミュニケーションの手段の多様化により、改めて「ことば」を学ぶことが重要となる中、「ことば」への関心を喚起し、市民の「ことば」をめぐる活動を支えて育てていく役割を担う文学館は、より必要とされる施設となっている。

#### （2）文学館の存廃について（本文6～7ページ）

審議会では、文学館を今後も存続させるべきと考えており、原案の文学館の存続すべき理由に加え、以下についても存続させる理由であるとしています。

##### ◆市民の文化活動の拠点

文学館は新たな文化の創造につながる市民の活動を支援する役割も担っており、市民の交流の場や文化活動の拠点として重要な施設である。

##### ◆まちの魅力を高める拠点

文学館が現在の場所で継続して事業を行っていくことは、文学館の価値をより高めると同時に、町田の文化的イメージの向上にもつながる。

### (3) 適正な管理運営について（本文8～10ページ）

#### ◆事業の見直しについて

文学館がより市民から必要とされ、愛される施設となるために、審議会では以下の提案をしています。

#### ◆子ども向け事業の充実

子どもたちが文学やことばと触れ合う機会を増やすため、子どもの学びへの意欲を引き出すような、創作活動などの主体的な学びを取り入れた事業を展開し、継続的な利用につなげていく。

#### ◆「文学」の概念の拡大

質の高い事業を維持しつつも、これまでの「文学」という概念にとらわれずに、漫画や映像作品など多様なジャンルを取り込んだ、親しみやすい事業を増やしていく。

#### ◆市民の発信力を活かした情報発信

市民を巻き込んだ事業を行うことで、行政からの情報発信だけではなく、市民自ら情報発信を積極的に行ってもらおう。

#### ◆市民の自己実現を支える事業の展開

一人ひとりの学習ニーズや学習の段階に寄り添い、ステップアップにつながる支援を行っていく。

#### ◆管理運営手法の見直しについて

管理運営方法の検討にあたって留意すべき点について、審議会では以下を挙げています。

#### ◆ビジョンの明確化と市民参画

市として明確なビジョンを持つこと、また市民や運営協議会に運営や実施事業に関わってもらい、市民目線や専門的・客観的視点からの意見や評価を受けながら、絶えず運営方針等の見直しや改善、改革を行っていくことが必要である。

#### ◆管理運営手法検討の視点

市民の学習環境をどう充実させていくかという視点を重視し、文学館の発展につながるような手法を選択できるよう、十分に検討を行っていくことが必要である。

#### ◆様々な管理運営手法の検討

民間経営のノウハウを導入する場合には、それぞれのメリット・デメリットを詳細に検討するとともに、文学館がこれまで蓄積してきた学芸員の専門的知識や資料の寄贈者、市民との信頼関係等を踏まえた慎重な検討が必要である。

